

令和 7 年 7 月 31 日

令和 7 年度における日本遺産の総括評価・継続審査の結果及び 候補地域の日本遺産への認定審査結果を発表します

「日本遺産審査・評価委員会」における審議を経て、平成 28 年度及び令和元年度に認定された日本遺産の総括評価・継続審査及び、候補地域の日本遺産への認定審査についての結果を発表します。

1. 点数評価プロセスの進め方について

- 令和 6 年度より実施している点数評価プロセスについて、審査年度間の公平性の観点から、当該プロセスを毎年度実施することとしました。

2. 平成 28 年度及び令和元年度に認定された日本遺産の総括評価・継続審査について

- 審査結果は以下のとおりです。

- ・「重点支援地域※」：5 件
- ・「認定継続」：21 件
- ・「再審査」：6 件
- ・「点数評価プロセス」：3 件

※ 認定番号 20「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～」については、「特別重点支援地域（日本遺産プレミアム）」としての認定審査を年内に実施予定です。

3. 「候補地域」の認定審査結果について

- 候補地域（計 1 件）については、候補地域として認定継続することとなりました。

詳しくは、以下の各資料を参照願います。

- 別紙 1 点数評価プロセスの進め方について
別紙 2－1 平成 28 年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果一覧
別紙 2－2 平成 28 年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果
別紙 3－1 令和元年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果一覧
別紙 3－2 令和元年度認定日本遺産総括評価・継続審査結果
別紙 4－1 候補地域認定審査結果一覧
別紙 4－2 候補地域認定審査結果

＜担当＞
文化庁参事官（文化拠点担当）
参事官 笈田
参事官補佐 本岡
係長 丸川
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-4909（直通）

点数評価プロセスの進め方について

令和 7 年 6 月 23 日
日本遺産審査・評価委員会

1. 基本方針と現状

- 現在、日本遺産として 104 件が認定されているところ、日本遺産全体の質の底上げや、ブランド力の維持・強化のため、認定件数は「100 件程度」という方針を堅持することとしている。
- 当該方針の堅持に当たって、認定地域の活発な取組の継続と、新たなストーリー・地域の参入による事業全体の活性化の観点から、既存の日本遺産地域の活動状況を評価し、活動継続の判断を行う「総括評価・継続審査」の仕組みを導入するとともに、条件付き認定地域と候補地域とをそれぞれ点数によって評価し、上位の地域を日本遺産とする「点数評価プロセス」を導入したところ。

2. 課題と今後の方針

- 点数評価プロセスは令和 6 年度に初めて実施したところ、その結果として、候補地域 1 件を新たに日本遺産として認定するとともに、条件付き認定地域のうち 3 件を重点支援地域として認定、1 件を候補地域に移行することとなった。
- 点数評価プロセスは上述のとおり、日本遺産全体の質の底上げや、ブランド力の維持・強化のために実施されるものであり、審査年度間の公平性の観点から、当該プロセスを毎年度実施することとする。

分類	認定 番号	都道府県名	申請者（◎印は代表自治体）	ストーリー名
重点 支 援 地 域	20 ※1	山形県	◎山形県（鶴岡市・西川町・庄内町）	自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』 ～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～
	35	広島県、神奈 川県、長崎県、 京都府	神奈川県（横須賀市）、広島県（◎呉市）、長崎県（佐世保市）、京都府（舞鶴市）	鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴 ～日本近代化の躍動を体感できるまち～
	36	愛媛県、広島 県	愛媛県（今治市）、広島県（◎尾道市）	“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島 －よみがえる村上海賊“Murakami KAIZOKU”の記憶－
認 定 地 域	19	宮城県	◎宮城県（仙台市・塩竈市・多賀城市・松島町）	政宗が育んだ“伊達”な文化
	22	福島県	◎郡山市・猪苗代町	未来を拓いた「一本の水路」 －大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代－
	23	千葉県	◎千葉県（佐倉市・成田市・香取市・銚子市）	「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」 －佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群－
	24	神奈川県	伊勢原市	江戸庶民の信仰と行楽の地 ～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～
	27	石川県	小松市	『珠玉と歩む物語』小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～
	29	岐阜県	高山市	飛騨匠の技・こころ －木とともに、今に引き継ぐ 1 3 0 0 年－
	30	兵庫県	◎洲本市・淡路市・南あわじ市	『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」 ～古代国家を支えた海人の営み～
	32	和歌山県	◎和歌山県（新宮市・那智勝浦町・太地町・串本町）	鯨とともに生きる
	33	鳥取県	◎大山町・伯耆町・江府町・米子市	地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市
	34	島根県	雲南市・安来市・◎奥出雲町	出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～
	37	佐賀県、長崎 県	◎佐賀県（唐津市・伊万里市・武雄市・嬉野市・有田町）、長崎 県（佐世保市・平戸市・波佐見町）	日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～
再 審 査	21	福島県	◎会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・ 北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳 津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村	会津の三十三観音めぐり ～巡礼を通して観た往時の会津の文化～
	28	長野県、岐阜 県	長野県（◎南木曽町・大桑村・上松町・木曽町・木祖村・王滝村・ 塩尻市）、岐阜県（中津川市）	木曽路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～

点 数 評 価 プ ロ セ ス ※2	25	神奈川県	鎌倉市	「いざ、鎌倉」 ～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～
	26	新潟県	新潟市・◎三条市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町	「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化
	31	奈良県	◎吉野町・下市町・黒滝村・天川村・下北山村・上北山村・川上 村・東吉野村	森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとこころ ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～

※ 1 認定番号 # 20 「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』 ～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～」については、特別重点支援地域としての認定審査を年内に実施する。

※ 2 令和４年度総括評価・継続審査において条件付き認定地域となった地域を対象に、点数による評価を行う。

平成28年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」及び「構成文化財の来訪者数」について目標を達成していないが、やむを得ない理由（令和6年梅雨前線による災害）が認められる。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「地域のガイド利用料収入」は、令和6年度の災害よりも前の年から減少傾向であり、目標を達成していない。
(4) その他	可	■ 「日本遺産の構成文化財が活用可能な状態にある割合」について目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産のPR協力事業者数を増加させており、市内の他日本遺産認定地域と連携したふるさと納税を活用した取組が行われるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 日本遺産の認知度が一定程度あるほか、DMOや県外大学と連携したデータ調査とそれに基づく戦略立案が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		不可	■ ガイド養成のための研修会等の取組や事業推進コーディネーターの配置等が実施されている一方で、日本遺産事業全体を統括するプロデューサー的役割を担う人材の配置が望まれる。
(４) 整備	個別評価	可	不可	■ 災害復旧や案内看板の整備などの受入環境整備が行われている一方で、整備に関する適切な指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 体験型コンテンツの造成や日本遺産の他認定地域と連携した周遊促進事業が図られているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 学校での授業・課外活動や親子を対象とした伝統文化体験などの普及啓発を通じて、日本遺産の認知度が一定程度得られているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ホームページ、SNSやYouTubeなどの多様なチャネルを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ これまでの取組の成果や課題を踏まえた事業計画が記載されており、構成文化財の保存と活用の双方の取組がバランスよく計画されている点が評価できる。 ■ 交流人口の増大、担い手の確保・育成、稼ぐ力での地域活性化という柱のもと、観光振興のための体験型コンテンツや、インバウンド誘客の拡大などをはじめ、多岐に及ぶ取り組みが計画されている点が評価できる。 ■ 「好循環の創出に向けた取組」については、具体的な数値目標を設定して取り組むことが期待される。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMO等の民間事業者を巻き込んだ自立・自走に向けた体制の構築が見受けられる他、大学などの教育機関やガイド団体なども積極的に巻き込んでいる点が評価できる。 ■ 児童生徒への普及活動等、中長期的な人材育成に関して取組が幅広く計画されている点が評価できる。 ■ 出羽三山精神文化ツーリズムの国内外への展開等、国内の足元事業だけではなく海外を含めた事業推進の方向性が示されている点が評価できる。
総合評価	■ 3年間の事業を踏まえ、「出羽三山の雄大な自然と日本を代表する精神文化を未来へつなぐ」というビジョンのもと、今後の目指す方向性・事業が整理されている点が評価できる。 ■ 組織整備から情報編集・発信まで、全体として優れた取組みが幅広く展開されていると評価できる。
評価結果	重点支援地域に認定 (特別重点支援地域への認定審査を別途年内に実施)

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「日本遺産のストーリーを体験した来訪者数」及び「日本遺産のストーリーを伝えるための環境整備の進捗度」について、概ね目標を達成している。 ■ 「外国人観光客数」、「経済効果」及び「宿泊者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「小中学生における認知度」について、概ね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連の体験ツアー数」、「日本遺産関連のふるさと納税寄付額」、「公開活用できている日本遺産構成文化財の割合」、「『文化財保存活用地域計画』等の策定数」、「文化財の保存・活用に関わる団体数」及び「新規に養成した観光ガイドの登録者数」等について、概ね目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 全ての構成地域における民間組織の参画の他、ふるさと納税等による日本遺産整備に資する資金の獲得、四市担当者の実務レベルでの協議・連携など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 全ての構成地域における行政計画や構想への日本遺産の位置づけの他、事業計画や改善を行う会議体も一定程度実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 全ての構成地域における地域ガイドの育成・交流事業や地域の文化財保存活用団体の育成・支援など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産ガイドセンター等の拠点整備や四市共通ストーリーブック・ガイドブックの作成・配布、ストーリーや構成文化財等の解説案内板の整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 構成四市の周遊促進事業の企画・実施や効果検証の他、日本遺産と連携した商品開発など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 教育委員会や学校現場と連携した出前講座の実施や教育旅行の誘致、子どもたちの理解度調査など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ HPや各種SNSなどを活用した情報発信や日本遺産に関する情報発信イベントの参加・開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 広域のシリアル型の日本遺産として、これまでの事業実績・課題を踏まえながら、地域資源の特色を活かしたビジョンと事業計画が立てられている点が評価できる ■ 重点項目が明確に示され、多角的な事業内容を検討されている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 関係自治体の緊密な連携に加え、教育機関との連携や民間事業者・住民の巻き込みなど、好循環の創出に向けての素地が整っている点が評価できる。 ■ 構成四市が主体となりながら、民間団体との連携が十分とられており、行政主導から民間主導へ移行していく方向性や、好循環の創出に向けて多角的に考えられている点も評価できる。 ■ 地域プロデューサーや観光ガイド人材の参画・育成も十分に練られている点が評価できる。
総合評価	■ 広域のシリアル型日本遺産として、各市が距離を超えて連携し、日本遺産・鎮守府を守り伝える努力を重ねている点が評価できる。 ■ ビジョン実現に向けて、多様な取組みと関係者の参画が計画されており、構成四市が精力的かつ工夫をしながら日本遺産・鎮守府の発信に取り組む姿勢が評価できる。 ■ 構成四市の担当者・サポーター市民の相互訪問・交流などのソフト事業の充実が計画されている点が評価できる。
評価結果	重点支援地域に認定

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」及び「村上海賊ミュージアム・因島水軍城での村上海賊関連グッズの売り上げ」について、目標を達成している。 ■ 「村上海賊ミュージアム、因島水軍城の来訪者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「村上海賊のロゴマーク使用にかかる寄付金額」について、目標を達成している。 ■ 日本遺産のためのふるさと納税額について、目標を達成していない。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ パートナー登録者数やふるさと納税等の寄付金を一定程度確保できており、地域間連携や民間団体との連携体制を構築できているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ ブランド力やブランド認知度、地域内コンセプトの浸透度において一定実績を挙げており、各市における行政計画に日本遺産の位置づけがなされるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プレーヤーが一定数おり、日本遺産ストーリーを説明する観光ガイド等の人材育成が進められているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ ストーリーを理解するための解説板等の整備、ビジターセンターや村上海賊ミュージアムなどの日本遺産を紹介する施設整備が進められているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 民間事業者を巻き込みツアー造成や商品開発を実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 出前講座の受講者数や日本遺産の理解度が一定程度あり、出前講座や地域小学生向けのストーリーを体感できるツアーの開催、民間事業者と連携した普及啓発の実施を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ホームページやSNS等の多様なチャネルを活用した情報発信を実施しており、ホームページのページビュー数やSNSのフォロワー数が一定確保できいるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域の特性を活かしたビジョンの策定や、ビジョン達成のための事業内容が具体的に計画されている点が評価できる。 ■ これまでの成果と課題が適切に分析できており、分析結果をもとにしたマーケティングや観光振興などの取組が計画されている点が評価できる。 ■ 地場産業との連携やグループツアー・修学旅行など、細部にわたって事業内容が具体的に計画されている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 「ガンツウ」「瑞風」「et SETOra」等を活用した高付加価値化コンテンツの造成や、海賊の食文化を活かした商品開発など、新たな魅力的な取組が網羅的に計画されている点が評価できる。 ■ DMOや観光協会との積極的な連携や地域プロデューサーの確保など、将来像を達成するための組織体制が整備できている点が評価できる。 ■ 財源負担の在り方を含めた持続可能な官民連携が計画されている点が評価できる。
総合評価	■ 魅力的なアクティビティを実現するための体制が構築されており、日本遺産を体感するための取組が具体的に計画されている点が評価できる。 ■ KaizokuをNinjaやSamuraiに並ぶ海外での知名度ある言葉に育てようとする姿勢が見られ、日本遺産を活かした地域づくりが計画されている点が評価できる。
評価結果	重点支援地域に認定

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」及び「宿泊者数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「小中学生における認知度」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」、「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「日本遺産構成文化財が活用可能な状態の維持」について、目標を達成している。
(4) その他	不可	■ 「伝統工芸体験プログラムの参加者・関連商品の購入者数」について、目標を達成していない。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	可	■ ふるさと納税額が一定程度あるほか、法人パートナーの組織化や地域プレイヤーの探索・育成やクラウドファンディングの実施など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(2) 戦略立案	個別評価		可	■ 地域コンセプトの浸透度が一定程度あるほか、民間を交えた事業計画の策定や、構成4自治体において行政計画への位置づけを行っているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(3) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プレーヤーとしての日本遺産認定ガイド養成やそれら認定ガイドによる日本遺産ストーリーを紹介した活動頻度について一定程度取組が見られるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(4) 整備	個別評価	可	可	■ 観光客の満足度及び宿泊者数の目標値を達成しており、構成文化財の整備や構成文化財を周遊するための動線・交通インフラの整備が進められているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 構成文化財への来訪者数について目標を達成しているほか、構成文化財を巡るサイクリングアクティビティやインバウンド向け旅行商品といった幅広い事業が展開されているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価		可	■ 教育旅行の誘致や民間主導のシンポジウムやワークショップの開催、認定地域内外での出前講座の開催といった幅広い普及啓発が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(7) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ホームページ、SNSやメールマガジンなどの多様なチャネルを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンは具体的な内容であるとともに、ビジョンと取組内容の関係性が分かりやすく記載されている点が評価できる。取組について一般的な観光振興・文化財保護に留まっており、ビジョンの達成に向けた取組内容の具体性・積極性を高めることが望まれる。 ■ 構成文化財の魅力・個性を活かした観光振興策を展開するとともに、面的な周遊ネットワークの整備だけでなく、多言語化整備等の訪日外国人旅行者の増加に向けた取組や目標値を適切に設定することが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 民間事業者が協議会に参画し、行政と連携した企画を実施する等、官民挙げての実施体制となっており、自立自走に向けた多様な財源確保が計画されている点が評価できる。 ■ 民間事業者との連携がさらに深化するよう配慮するとともに、財源確保の計画についても公費だけでなく別の手段の具体化が望まれる。 ■ 組織体制における民間事業者等の関係団体の役割分担を深化させるとともに、ワーキンググループ・グループリーダー・地域プロデューサー等の位置づけを明確に定義することが望まれる。 ■ 自立・自走に向けた大きな要素となりうる訪日外国人旅行者の目標が低く、これまでの実績値を踏まえて目標値の水準を適切に設定することが望まれる。
総合評価	■ 全体として、ビジョンについて日本遺産の目指す先を十分理解して構築されている点が評価できる。 ■ ビジョンを実現するための取組の順序・流れを整理する他、日本遺産事業としてストーリーをより意識して取組を具体化し、マーケットインの視点を持って実践することが望まれる。 ■ 古代の所産である多賀城と江戸時代の伊達文化の関連付けへの工夫や広報戦略の強化が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」、「コンベンション」及び「宿泊者数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「認知度」について、目標を達成している。 ■ 「ガイド案内件数」について、概ね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「一本の水路ブランド認証団体数」、「協議会の受託販売額」及び「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「協議会委員や関係団体の参加型イベント数」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 個人サポーター・法人サポーターの数は一定程度あり、DMOや民間事業者等と連携するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ ブランド力、ブランド認知度が目標を達成しているほか、行政計画における日本遺産の記載や、モニター調査結果を現状把握と企画立案に活用するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		不可	■ 地域プレイヤーを一定数確保しているものの、日本遺産事業全体の活動を統括・コーディネートする地域プロデューサーの取組内容の明確化が望まれる。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 全ての構成文化財における案内・解説板を整備したほか、ガイダンス施設の増設や構成文化財の修理を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	不可	■ 民間主導のイベント開催を支援するなど民間事業者との連携が進められているものの、観光事業化に関する取組の更なる強化が望まれる。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 教育機関と連携したノベルティグッズ制作、出前講座の実施や事業者ロゴ利用促進事業を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ホームページ、SNSや日本遺産アプリなどの多様なチャネルを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域のありたい姿としてのビジョンが語られておらず、「稼げる日本遺産」等のコンセプトを実現するための方策についても不明瞭であるため、これまでの成果や課題を踏まえ、それぞれ具体化することが望まれる。 ■ 観光部局が事務局となっている点は評価できるが、観光だけでなく、構成文化財の適切な保存・活用・整備に関する取組についてもしっかりと取り組むことが望まれる。 ■ 「稼げる日本遺産」を実現するにあたって必要な取組を具体化するとともに、好循環の創出に向けた取組内容を評価するための経済指標を設定することが望まれる。 ■ 事業を実施するうえで必要となる構成文化財の整備計画や周遊ルートの確立等、着実かつ具体的な事業計画を立てるのが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 産学官連携のWGの新設やプロデューサーへの権限移譲を計画しているほか、教育機関も含めた意欲的な団体などを網羅した推進体制を構築している点が評価できる。 ■ 郡山市のみを対象とする文章が見受けられることから、シリアル型の日本遺産として、特定の地域に偏重せず構成地域全体での事業展開を行うことが望まれる。 ■ 協議会による自主的な取組の更なる充実を図るとともに、組織の自立自走については具体的な目標金額を設定して取り組むことが望まれる。
総合評価	■ 日本遺産事業として必要な取組が一定程度記載されており、取組の推進にあたっての体制が一定程度整備されている点について評価できる。 ■ 観光コンテンツの造成と域内のシビックプライド醸成だけではなく、現地に来た旅行者に理解を深めてもらうための取組を強化することが望ましい。 ■ DMOや民間事業者等への将来的な事業継承を目指しているが、実現性を担保するための具体的なアクションプランを示すことが求められる。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」、「構成四市施設への入込数」及び「校外学習・教育旅行で北総四都市の構成文化財を訪れた学校数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」、「民間事業者との連携事業数」、「担当会議の開催実績」及び「行政計画・構想への位置づけ件数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 組織内に一定数の民間事業者の参画が見られるとともに、ふるさと納税の実績が大幅に増加しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		不可	■ 行政計画への日本遺産事業の位置づけが行われているものの、戦略立案に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プロデューサーや地域プレーヤーが一定数確保されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ サブストーリーの発掘やツアー造成等、ストーリーを伝える仕組みが整っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	不可	■ 民間事業者と連携したツアーの造成販売等の取組を行っているものの、観光事業化に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 教育旅行の誘致活動により校外学習に訪れる学校数が増加しているほか、県内小中学校向け学習マンガの配布など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ Webサイト、SNS、イベントでの広報など、情報発信に関する幅広い取組が実行されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンが明確であり、地域の特性を十分に踏まえた具体的なものになっている点が評価できる。 ■ ターゲット設定について、江戸の何を訴求するのかという「価値」の明確化に加え、海外を意識した計画についても検討が望まれる。 ■ 来訪者が日本遺産ストーリーを理解するための解説案内やガイダンス施設の整備に関する取組の強化が望まれる。 ■ 観光事業化の取組が一般的なものとどまっており、日本遺産を活用した取組内容の更なる工夫が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 学校、JR、空港など、協議会以外にも組織的に意識されており、官民挙げて将来像を共有するための担当者会議や人材育成の取組が行われている点が評価できる。 ■ 「組織の自立・自走」の姿が描けておらず、ふるさと納税や補助金等のみに頼らない自己収入の確立に向けた計画の立案が望まれる。 ■ 地域プロデューサーが4都市の活動を包括的にリードできるかが不明であり、実効性を担保するための取組が求められる。
総合評価	■ 地域特性と課題、取り巻く社会環境等を踏まえたわかりやすいビジョンとなっており、立地など地域の特徴を踏まえた計画整備が出来ている点が評価できる。 ■ 行政主体の活動が中心であり、柔軟な事業企画や民間主導の事業を活かせる体制整備が望まれる。 ■ 行政の役割として、シリアル型の長所を探りつつ、4都市をつなげて江戸を体感してもらうための取組の更なる充実が望まれる。 ■ 首都近郊に位置するシリアル認定地域であればこそ、個性をより強く打ち出したストーリー展開に基づくビジョン・事業の策定が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「外国人観光客数」及び「体験コンテンツの体験者数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 提出された指標からは、日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立に係る取組状況を評価できない。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

II. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	不可	■ 協議会への民間組織の参画や、販売収入からの日本遺産整備への1%還元等の取組を実施しているものの、収益性を高める取組等、協議会の組織整備に向けた取組のより一層の推進が望まれる。
(2) 戦略立案	個別評価		不可	■ 構成自治体の行政計画における日本遺産の位置づけが行われているものの、戦略立案に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(3) 人材育成	個別評価		可	■ 大山地域通訳案内士やいせはら歴史解説アドバイザーの育成が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(4) 整備	個別評価	可	不可	■ 構成文化財の受入環境整備や特別公開等、整備に係る取組が行われているが、ガイダンス施設の整備や、整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(5) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 体験型旅行商品の造成等を通じて、観光客入込数および周遊エリアの拡大について一定程度取組が行われるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価		不可	■ 宿坊体験型教育旅行の提供や大山能狂言に関する親子教室などを実施しているものの、市民の日本遺産の認知度が低い水準であり、普及啓発のさらなる強化が望まれる。
(7) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 公式ウェブサイトやSNSによる情報発信が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 現状や課題に基づいて、「信仰と行楽」というコンセプトに沿って大山詣り体験や観光コンテンツ等の多彩な取組や、通訳案内士の活用、歴史観光案内人等の人材確保等、これまでの取組の継続・充実が計画されている点が評価できる。 ■ 多彩な取組を行っている中で、体験コンテンツの体験者数やインバウンド来訪者数は決して多くはない他、地域での認知度向上、先導師、こま技術者等の後継者不足への対策が求められるなど、これらの課題を解決するためもう一步踏み込んだ具体的な方策作りが望まれる。 ■ 首都圏に近いという地の利を生かし、日本遺産事業を通じた好循環の創出に向けたより具体的な戦略立案や数値目標の設定が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 産官学連携した協議会構成および地域一体で推進するための体制が整備されている点が評価できる。 ■ ストーリー展開をより掘り下げた政策立案・事業創出の対応が望まれる。 ■ 組織の自立・自走に向け、具体的な目標金額の設定が望まれる。 ■ うまいもの遺産について、日本遺産の趣旨から乖離することがないように注意が必要である。
総合評価	■ 民間企業を含む多様な人材を活用しながら、自走化に向けた多角的な取組が整理されている点が評価できる。 ■ ビジョンの実現に向けた取組の計画として、もう一步踏み込んだ取組を検討・推進することが望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成している。 ■ 「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、実績値の測定ができていない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、概ね目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「ガイド人数」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	不可	■ 協議会の会員数やふるさと納税額が一定程度あり、地域DMOとも連携しているものの、協議会本体の組織整備に向けた取組の実施が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 学術調査の実施やこまつ新交流ビジョン2024等の各種行政計画への日本遺産事業の位置づけを行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プレイヤー数が一定程度あるほか、地域プロデューサーの確保、教育機関・企業等と連携した人材育成を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 構成文化財の整備事業、説明看板、展示スペースや交流拠点等の整備を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 観光入込客数やガイド利用人数が一定程度あるほか、教育旅行コンテンツの造成や産業観光「GEMBAプロジェクト」の推進を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 生徒への副読本配布や体験学習、伝統産業九谷焼に触れる機会の創出、生涯学習環境の整備を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ ウェブサイトやSNS等の多様なチャネルを活用した情報発信や、アーティストインレジデンスの実施を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 多様な方向から地域を磨いていこうとする計画となっている点が評価できる。 ■ 石の文化を中軸とした地域活性化について、小松駅周辺での拠点整備と回遊性向上のための取組が着実に進められている点が評価できる。 ■ ガイダンス機能の充実や自走化などの取組が見受けられ、新たに開設した観光交流センター「Komatsu九」等の拠点整備を中心に様々な取組が行われている点が評価できる。 ■ 中心市街地と農山村エリアの2地区を拠点として、ビジョンに基づく具体的で魅力的な取組が示されている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 日本遺産事業の推進主体を地域DMOが担っており、地域資源の掘り起こしができる組織となっている点が評価できる。 ■ 各種民間団体が主導する協議会運営や民間ノウハウを活かした長期的な人材育成等の事業が着実に展開されているほか、自立自走に向けて、地域や産業団体などの稼ぐ仕組みが具体的に整理されている点が評価できる。 ■ 事業全体の司令塔の担い手やプロデューサーの位置づけなど、各関係者の役割を明確にすることが望まれる。 ■ 個々の事業は明確であるものの、日本遺産ストーリーに沿って組み立てていく戦略や手法の更なる明確化が望まれる。
総合評価	■ 日本遺産を活かした地域づくりという観点とそれに連動した取組が行われており、地域の実情に応じた適切な規模で計画が立案できている点が評価できる。 ■ ストーリーに記載されている、九谷焼だけでなく他の鉱物資源等の活用の検討が望まれる。 ■ 計画の実現に向けて、組織の自立・自走が要件となるところ、好循環の創造や組織の自立・自走についての数値目標を設定したうえで、取組を実施することが望まれる。 ■ 今後6年間に於いて、どこまで事業展開するかをより具体的にすることが望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「協議会の自立化における協議会事業費の民間事業費割合」について目標を達成していない。
(4) その他	ー	ー
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	不可	■ 民間事業者・団体等を含めた協議会体制は一定程度整備されているものの、組織整備に資する取組の更なる強化が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価		不可	■ 高山市第八次総合計画等の各種行政計画において日本遺産の位置づけがされているものの、戦略立案に関する適切な指標設定の検討が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域限定通訳案内士を含む現地の案内体制が整備されているほか、各種ガイドの育成・確保や技術の承継等に向けた取組を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 案内板の設置と多言語化、構成文化財の修理・修繕を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 飛騨高山まちの博物館、体験交流館における入館者数が一定程度あるほか、体験メニュー等の造成や観光収入の獲得に向けた取組を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 民間主導のイベントなど普及啓発に係る取組を行っているほか、小学生向けパンフレットの作成や中学校での郷土学習といった教育分野での取組を進めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 新聞記事やFacebookのフォロワー数など一定の実績があるほか、SNS運営や広報誌の発行、駅での情報発信、拠点整備など情報発信に係る様々な取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョン実現に向けて幅広い取組を展開している点が評価できる。 ■ ビジョンに至る背景や考え方について記載されておらず、現状や課題を踏まえて具体化することが求められる。 ■ 来訪者がストーリーを理解できるような環境整備等、飛騨高山ブランドの地域内外への浸透に向けた取組の具体化が求められる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMO、商工会議所や観光関連事業者など多様なステークホルダーの参画がみられるものの、羅列的であり、それぞれの役割分担の明確化が望まれる。 ■ 日本遺産全体の戦略立案・事業執行の責任を担う人材の確保が望まれる。 ■ 自立・自走に向けた取組が不十分であり、持続可能性を高めるための具体的な仕組みや、消費額等の経済効果を測る指標等の検討が求められる。
総合評価	■ 飛騨匠の技を継承する事業が核となり、日本遺産の枠組みの中で地域の伝統を守る取組が実施できている点が評価できる。 ■ 既存の観光地としての認知度がある中で、日本遺産をどのように活用していくかといった観点で事業に取り組む必要がある。 ■ 現状と課題を整理し、日本遺産を活用して地域がどのような将来像を目指していくのか、検討する必要がある。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「淡路島日本遺産の認知度」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」及び「日本遺産への協力団体数関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

総括評価

Ⅱ. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産サポータークラブの加入者数が一定程度おり、兵庫県内の他の日本遺産や民間事業者との連携など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 地域内の日本遺産認知度が高いほか、行政計画への日本遺産の位置づけを行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 地域プロデューサー数が一定程度あるほか、講習会、交流研修やワークショップの開催を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	不可	■ 観光客満足度が一定程度あるものの、来訪者の多様なニーズへの対応として、解説案内板設置とWEBサイトの更新のみでは不十分であり、受入環境整備の更なる強化が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ ワークショップを通じた商品開発、体験コンテンツの提供やなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 学習体験を行った生徒数が一定程度あるほか、兵庫県歴史博物館との共同研究や民間主導のイベント開催を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		不可	■ ウェブサイトのページビュー数が一定程度あるものの、SNSを活用した情報発信が停滞しているなど、多様なチャネルを活用した情報発信の強化が望まれる。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	最終評価理由（現地調査結果含む）
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンについて、日本遺産のストーリーとの関係性を具体化することが望まれる。 ■ 日本遺産ストーリー関連の来訪者数が低い水準にあり、構成文化財の保存整備や、日本遺産ストーリー・構成文化財の活用戦略の強化等、具体的な改善策の検討が望まれる。 ■ 持続可能な地域活性化の実現に向けて、観光入込客数だけでなく、より多角的な指標の整備が望まれる。 ■ 通過型観光という課題を踏まえ、関西圏に近い地の利を活かしたインバウンド振興策を講じることが望まれる。 ■ RPGの課金収入は独自の取組といえるが、収支等に鑑み、収入源として適当か検討が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 地域連携DMOが事務局を担い、金融機関がオブザーバーとして参加しているなど、多様なステークホルダーが参画し、一定の役割分担がなされている点が評価できる。 ■ 自治体の負担金に依存しており、独自財源や自立化の計画が不明確であり、自立・自走や好循環の実現に向けた体制整備が望まれる。 ■ 地域活性化に向けて観光消費額等の経済効果指標の設定が望まれる。
総合評価	■ 観光振興や普及啓発に力を入れること自体は評価できるものの、日本遺産ならではの特色を活かして観光振興策を具体的に検討することが望まれる。 ■ 日本遺産ストーリーや構成文化財をどのように活用するかといった戦略を立て、現地整備や事業化等、戦略の実現に向けた具体的な取組の検討が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「組織体制への行政組織以外の参画者数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 協議会に参画している民間団体数が一定程度あり、協議会の収益確保に向けた地域事業者との覚書締結を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ ブランド認知度が一定程度あり、行政計画への日本遺産の位置づけや計画に基づくPDCAの実施を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		不可	■ 地域における観光ガイドが一定数確保されているものの、ガイド養成研修や公開セミナーなど人材育成活動の頻度を向上させることが望まれる。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産に関連する施設や案内板の整備、ガイドブックの作成など、ストーリーを来訪者に伝えるための取組が進められており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 構成文化財を周遊するガイドツアーの実施、日本遺産に関連した商品の販売、周遊につながる自動運転サービスの提供を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 小中学校における学習体験、学校給食普及活動や地域住民向け日本遺産公開セミナーを行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 公式ウェブサイト、SNSや新聞雑誌などの多様なチャンネルで情報発信が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域の特性を活かした明確なビジョンが描けている点が評価できる。 ■ ビジョンの達成や持続的な地域活性化に向けて、日本遺産ストーリーを活用した具体的な取組の検討や、経済的な指標の設定が望まれる。 ■ これまでの延長線上にある事業が多く、自立自走に向けた新たな事業検討や適切な予算確保が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 観光事業者や交通事業者等の民間事業者との連携ができている点が評価できる。 ■ 組織の自立・自走に向けた、目標金額や消費額等の経済効果指標の設定や商品販売以外の具体的な取組内容を計画することが望まれる。 ■ 民間団体等への移管に関する計画の更なる具体化や、行政・観光関連団体・芸能保存会の関連性の明確化が求められる。
総合評価	■ 地域性やストーリーの特性を踏まえた取組内容が一定程度計画されている点が評価できる。 ■ 全体的に現状維持を目指すための取組内容となっており、ストーリーを活用した新たな産業創造や、民間事業者の能動的な参画の促進等、ビジョン達成に向けた取組内容と体制を強化することが望まれる。 ■ 伝統的な人の営みの歴史である捕鯨文化を適切に発信するため、学術的知見を持つ地域プロデューサーの育成や、具体的方策の検討が求められる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「ガイドンス施設への来訪者数合計」について、概ね目標を達成している。 ■ 「宿泊者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。 ■ 「小中学生における認知度」について、概ね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「組織体制への行政組織以外の参画者数」、「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	不可	■ 「ウェブサイトのアクセス数」について、目標を達成していない。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 行政内部での連携や参画する民間組織の増加に加え、ふるさと納税などによる資金獲得、地域プロデューサーの選任、教育機関との連携による取組もなされているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 参画市町の行政計画・構想にて日本遺産の位置づけがなされており、事業計画や改善を行う会議体も定期的に実施されているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ ガイドの育成事業が精力的に行われ、成果としてガイド数も一定程度確保されているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ ガイダンス施設や重要文化財の案内・解説板の設置に加え、構成文化財の保全も行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 周遊を促進する交通手段の整備や特別拝観やトレッキングツアーの実施等、日本遺産関連商品の開発・販売等の観光事業化につながる取組が実施されており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 出前講座等による学習体験・歴史講座・研修会に加え、日本遺産の認知度が一定程度得られているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ SNSや日本遺産サイト、マップ・リーフレットの配布等の多様なチャネルを活用した情報発信を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 過去の活動の振り返り（課題分析）と現状を踏まえた上で、ビジョンや取組方針、具体的な取り組みが示され、目標も明確で実効性に期待が持てる計画となっている点が評価できる。 ■ 地域住民・来訪者それぞれの目線や持続可能性（自走性）に配慮したビジョンが設定されている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 官民連携による協議会の役割分担が一定程度明確であり、地域プロデューサーを核に、シリアル型として実務的な推進体制となっている点が評価できる。 ■ 市町村ごとの部会について、それぞれ個別のものとならないよう、民間事業者の巻き込み等、市町村を超えたつながりを生み出す工夫が望まれる。 ■ 自立・自走に向け、経済効果を測るための消費額等の具体的な目標金額の設定や、様々な財源確保のための仕組みづくりが望まれる。
総合評価	■ 民間事業者と連携した体制となっており、地域全体で日本遺産に取り組んでいく姿勢や、現地の整備に資する取組の重点化など、整備も含めた具体的な計画立案が行えている点が評価できる。 ■ 「大山さんのおかげ」を誇りに思う地域住民が多いことを活かした地域活性化の方策や、大山の豊かな自然などを前面に出した観光事業化などについても検討していくことが望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「日本遺産のストーリーについて理解・関心を深めた来訪者の割合」及び「ゲートウェイ施設3館の入場料等収入総額」について、目標を達成している。 ■ 「地域の宿泊者数」について、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「首都圏在住者が『たたら』に興味関心のある割合」及び「地域の行事に参加していると答えた児童の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連事業の協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 多くの民間組織も参画し、行政内外での連携が行われ、ふるさと納税等による資金獲得にも精力的に取り組まれており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		可	■ 行政計画や構想への日本遺産の位置づけがされており、事業計画や改善を行う会議体も頻度高く実施されていることから、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 構成市町村毎に地域人材による観光ガイド数を一定数確保しており、ガイドの会研修や観光協会研修などの人材育成に向けた取組もされているため、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産の全体像を理解できるガイダンス施設を整備しているほか、各構成文化財に対する案内や解説板の設置や構成文化財の保全の取組も盛んに行われているため、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	可	■ 認定初年度に比べてインバウンド客や観光消費額が増加し、高付加価値化に向けた取組や多様なツアー造成等、日本遺産と連携した商品開発等の取組が活発に行われており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 児童に向けたたら体験学習を実施したほか、立命館大学オンライン授業での講演や一般参加可能な古代たたら復元作業の開催など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 日本遺産の情報発信ツールとして、HPやSNSを活用できており、情報発信イベントへの積極的な参加を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 目指すべきビジョンが明確かつ具体的であり、現状と課題が細かく分析され、対策と取組が整理されている点が評価できる。 ■ たたらファン観光での地域振興というビジョンに基づく、ボランティアガイドの確保、情報発信や構成文化財の保存活用等の取組を行う点が評価できるが、圏域全体での活動やファン層の誘客に関する取組の強化が望まれる。 ■ プレイヤーの発掘やモデルコース造成などこれまでの取組の延長にあるものが多く、新たな取組を含む事業内容の更なる充実化が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 体制について官民を含めて概ね整っており、協議会運営を民間主体のDMOに移行することを目指している点など、意欲的な体制検討が行われている点が評価できる。 ■ 財源確保に関する実現可能性が不透明であり、ふるさと納税・補助金以外の自己財源確保に向けた具体的な方策の検討が求められる。 ■ 自立・自走可能な推進体制づくりに向けて、アドバイザーの配置、専属スタッフの任用の予算化等、移行に向けた具体的な計画の立案が望まれる。
総合評価	■ 3年間の活動を通じて問題点・課題の整理を行い、地域の実情を踏まえた計画となっている点が評価できる。 ■ 一人当たりの消費額を増加させる方向性は評価できるが、そのための具体的なターゲット設定やターゲットに応じた宿泊施設などインフラ整備計画の更なる具体化が求められる。 ■ 事業計画の内容がどの程度実現できるかが未知数であり、ビジョンの実現に向けた取組の具体化が必要である。 ■ 好循環の実現に向けて、経済効果指標の設定、有償ガイドの育成、文化財を活用した宿泊施設の整備、高付加価値な体験コンテンツの造成など、経済価値創出を意識した取組の実施が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」、「肥前窯業圏の訪日外国人観光客数」及び「九州陶磁文化館の入場者数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の歴史文化に誇りや愛着を感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体・企業数」及び「日本遺産のためのふるさと納税額」について、目標を達成している。
(4) その他	可	■ 「経済効果」について、目標を達成している。
総合評価	可	■ 全体として、目標を達成している。

総括評価

Ⅱ. 取組内容に関する評価

		重点事項 評価結果	評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	可	■ 民間組織も参画して行政内外での連携が一定程度図られており、日本遺産の整備等に活用するための収益事業等を通じた資金獲得にも取り組まれているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価		不可	■ 協議会独自のブランドの認知度は高くなく、各市町の行政計画・構想への日本遺産の位置づけについても不十分であり、戦略立案に関する取組のさらなる強化が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価		可	■ 構成市町村毎に地域人材による観光ガイド数を一定数確保する他、協議会や構成市町主催にて人材育成に向けたセミナー等にも取り組むなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	可	■ 日本遺産の全体を理解できるガイダンス施設を整備する他、日本遺産案内看板の各市町への設置を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	不可	■ 日本遺産関連商品の制作・販売は一定程度実施されているものの、日本遺産事業全体の集客効果・経済効果を高めるための取組を検討することが望まれる。
(６) 普及啓発	個別評価		可	■ 出前講座等の学習体験の実施やイベント出展を通じたプロモーションを行い、学習体験者等における日本遺産への理解度を高めるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価		可	■ 日本遺産の情報発信ツールとして、HPでの多言語対応やInstagramを活用する他、日本遺産に関する情報発信イベントへの参画・開催を定期的に取り組むなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価			可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ これまでの取組と課題を踏まえたビジョンや事業の方向性が描けている点が評価できる。 ■ 取組について内容の具体性を高めることに加え、既存の取組の延長だけではなく、課題を踏まえた新たな取組も検討することが望まれる。 ■ 持続的な地域活性化のための経済的な指標として、協議会による自主事業収益指標以外の指標追加も検討することが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 焼物の事業者組合はじめ、多様な主体が参画している点が評価できる。 ■ 日本遺産事業への民間企業の関わり方や果たすべき役割を明確化し、自立自走や持続性の確保、好循環創出に向けた目標や取組を具体化・充実させることが望まれる。 ■ 窯業というテーマの下、個別地域毎の取組はもとより、2県8市町に跨る広域シリアルを牽引する地域コーディネーターを確保し、地域横断での連携を強化・促進することが望まれる。
総合評価	■ 窯業を支える民間事業者や組織の自主的活動と、産業としての収益増を図る試みの検討や、焼き物という魅力ある資源を活かした周遊・体験コンテンツの造成等による経済効果の創出について、具体的な計画・取組を検討することが望まれる。 ■ 圏域内の多様な焼き物文化、それに関連する幅広い要素や担い手を活かすようなビジョン、取組、体制を構築することが望まれる。
評価結果	認定継続

分類	認定 番号	都道府県名	申請者（◎印は代表自治体）	ストーリー名
重点支援地域	68	北海道	北海道（芦別市・小樽市・室蘭市・夕張市・岩見沢市・◎美瑛市・江別市・赤平市・三笠市・歌志内市・栗山町・月形町・沼田町・安平町）	本邦国策を北海道に観よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～
	69	宮城県、岩手県	岩手県（平泉町・陸前高田市・大船渡市）、宮城県（気仙沼市・南三陸町・◎涌谷町・石巻市）	みちのくGOLD浪漫 －黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどる－
認定地域	70	群馬県	館林市	里沼(SATO-NUMA) －「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化－
	71	福井県	◎福井県（福井市・勝山市）	400年の歴史の扉を開ける旅 ～石から読み解く中世・近世のまちづくり 越前・福井～
	75	大阪府	泉佐野市	旅引付と二枚の絵図が伝えるまち －中世日根荘の風景－
	76	大阪府	河内長野市	中世に出逢えるまち ～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～
	77	兵庫県	赤穂市	「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂
	78	鳥取県	鳥取県（◎鳥取市・岩美町・若桜町・智頭町・八頭町）、兵庫県（香美町・新温泉町）	日本海の風が生んだ絶景と秘境 －幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」
	79	島根県	島根県（◎浜田市・益田市・大田市・江津市・川本町・美郷町・邑南町・津和野町・吉賀町）	神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ～石見地域で伝承される神楽～
	80	岡山県、香川県	岡山県（◎笠岡市）、香川県（丸亀市・土庄町・小豆島町）	知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島 ～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～
	82	鹿児島県	◎鹿児島県（鹿児島市・出水市・垂水市・薩摩川内市・いちき串木野市・南さつま市・志布志市・南九州市・始良市）	薩摩の武士が生きた町 ～武家屋敷群「麓」を歩く～
	83	沖縄県	◎沖縄県（那覇市・浦添市）	琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」
再審査	72	愛知県	名古屋市	江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ～藍染が風にゆれる町 有松～
	73	三重県	◎鳥羽市・志摩市	海女(Ama)に出逢えるまち 鳥羽・志摩 ～素潜り漁に生きる女性たち
	74	滋賀県、和歌山県、大阪府、奈良県、京都府、兵庫県、岐阜県	滋賀県（◎大津市・長浜市・近江八幡市）、和歌山県（那智勝浦町・和歌山市・紀の川市）、大阪府（和泉市・藤井寺市・茨木市・箕面市）、奈良県（高取町・明日香村・桜井市・奈良市）、京都府（宇治市・京都市・亀岡市・宮津市・舞鶴市）、兵庫県（宝塚市・加東市・加西市・姫路市）、岐阜県（揖斐川町）	1300年つづく日本の終活の旅 ～西国三十三所観音巡礼～
	81	徳島県	徳島市・吉野川市・阿波市・美馬市・石井町・北島町・◎藍住町・板野町・上板町	藍のふるさと 阿波 ～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～

令和元年度認定日本遺産 総括評価・継続審査結果

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「主要施設における来場者の満足度」について、目標を達成している。 ■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」及び「新聞記事として掲載された回数」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	-	-
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ 構成団体数や構成団体からの負担金・協力金等が一定程度あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	不可	■ 地域の文化に誇りを感じる住民の割合は一定程度あり、日本遺産「炭鉄港」を活かした地域活性化戦略策定等が行われているが、それらに加え行政計画への位置づけなど、戦略立案に係る取組の更なる強化が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プレイヤー数や地域活性化の活動への参加者数が一定程度あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を人材育成に必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	■ 主要施設における来場者の満足度が一定程度あるほか、観光に関連した様々な整備事業を行うなど、地域活性化・観光の振興を図る整備に必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光入込み客数や宿泊者数が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産の認知度や出前講座参加者数が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトの閲覧数や新聞への掲載数が一定数あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 課題や対策が細かく整理され、「保存する意味としての価値」と「活用する”有用性としての価値」など、産業遺産としての特性を踏まえたビジョンを設定している点が評価できる。 ■ 負の遺産とみなされがちな産業遺産に対して9つの具体的な取り組みを中核に据え、多元的・多彩な施策の確実・効果的な実行が期待されることが評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 民間組織も巻き込んだ炭鉄港ラウンドテーブルを新たに設置し、多様な関係者を交えてそれぞれの主体的な取り組みを総括できる体制となっている点が評価できる。 ■ 中心となる組織が北海道庁空知振興局から炭鉱の記憶事業団などの民間組織に移り、地域からのアイデアを取り込んだ創造的な活動に繋げている点が評価できる。
総合評価	■ これまでの取組成果を活かしつつ、明解で意欲的なビジョン設定および実現に相応しい体制となっている点が評価できる。 ■ 炭鉄港を活かした地域づくり・人づくりを中心に、地域を支え活かす「ヒト」に対して新たな事業を創造していく姿勢が評価できる。
評価結果	重点支援地域に認定

総括評価

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「観光客の満足度」について、目標を達成している。 ■ 「外国人観光客数」及び「施設利用者」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」、「日本遺産を活用した取組数」、「日本遺産に関連する事業を展開する事業者数」、「コーディネーター等育成講座修了者による活動件数」及び「学習体験をした児童・生徒の数」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」、「日本遺産に関する旅行商品数」、「調査対象文化財を活用した商品開発数」及び「嗜好性調査を踏まえた商品開発数」について、目標を達成している。
(4) その他	不可	■ 「コンテンツダウンロード数」及び「日本遺産『みちのくGOLD浪漫』の認知度」について、目標を達成していない。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

II. 取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(1) 組織整備	個別評価	可	■ ワーキンググループの設置数や日本遺産を活用した取組数が一定数あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(2) 戦略立案	個別評価	可	■ 日本遺産との関係性を明確にした行政計画数や支部会議・ワーキンググループの開催数が一定あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る戦略立案に必要な取組が概ね実施できている。
(3) 人材育成	個別評価	可	■ 日本遺産関連の事業展開を行う事業者数やガイドの活動件数が一定あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る人材育成に必要な取組が概ね実施できている。
(4) 整備	個別評価	可	■ 日本遺産を活用した取組数や観光客の満足度が一定あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る整備に必要な取組が概ね実施できている。
(5) 観光事業化	個別評価	可	■ 日本遺産関連の商品・サービス数や旅行商品数が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(6) 普及啓発	個別評価	不可	■ 学習体験を経験した生徒数が一定程度いるが、地域での認知度等の向上に向けた更なる普及啓発の取組が望まれる。
(7) 情報編集・発信	個別評価	不可	■ HP等に掲載されたコンテンツのダウンロード数や再生数が一定数あるが、認知度の向上に向けた更なる情報編集・発信の取組が望まれる。
総合評価		可	■ 全体として、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 東北の特徴・現状を踏まえたビジョンが策定されており、取組も具体的で分野別のパートナーシップ制度と拡充、核となるガイドランス施設の意識や周遊性確保などが評価できる。 ■ 持続的な地域活性化のために、施設の入込客数だけでなく経済的な指標を設定して取り組むことが期待される。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 地域プロデューサーを軸として、構成文化財の関係者や観光事業者等のパートナー等、民間も含めた体制になっている点が評価できる。 ■ 推進協議会だけでなくパートナーシップ制度の運営や、そのためのワーキンググループの設置等、動きがある組織となっている点が評価できる。
総合評価	■ 全体として非常に意欲的であり、体制を整備し、日本遺産事業を効果的に推進する姿勢がある点が評価できる。 ■ 今までの取組成果を活かしつつ、パートナーシップ制など、ビジョンの実現に相応しい体制・計画となっている点が評価できる。
評価結果	重点支援地域に認定

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成している。 ■ 「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「小・中学生における日本遺産「里沼」の認知度」及び「日本遺産「里沼」関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産「里沼」への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	-	-
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産協力団体数やふるさと納税額などが一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	不可	■ 日本遺産関連で開発された商品・サービス数が一定数存在し、行政計画への日本遺産の位置づけも行われているが、戦略立案に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーや地域プレーヤー数が一定数存在するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る人材育成に必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	不可	■ ストーリー解説サインの設置数やガイドブック・パンフレット作成数等、受入体制の整備が行われているが、整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光入込客数やレンタサイクル貸出数が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産認知度や普及啓発事業への参加者数が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ウェブサイトの閲覧数やサイト・Xの投稿数が一定数あることなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 市の総合計画や文化財保存活用地域計画で日本遺産の位置づけが明確化され、里沼の認知度やシビックプライドの醸成が行われていることは評価できる。 ■ 構成文化財を活かした観光事業化など地域経済の活性化に向けて、これまでの成果と課題を明確にしたうえで、方向性とその実現に向けた具体策を検討し、持続的な地域活性化のために経済効果につながる取組を行うことが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 市民への普及啓発や子どもへの郷土学習を通じた認知度向上は大きな基盤となっており、かつ東武鉄道や東洋大学などの民間事業者を構成員に巻き込めている点は評価できる。 ■ 行政主導を脱却し、持続可能な体制づくりを目指した役割分担とロードマップの作成や地域プロデューサーの関与度を高めることが望まれる。
総合評価	■ 「里沼学」をはじめ、「里沼」という新しい領域を活かした地域活性化を進め、里沼の歴史的価値の保全を期している点は評価できる。 ■ 今後どのように日本遺産を活用してこれまでの課題を解決し、観光振興・地域活性化を目指していくか、また、持続可能な自然資源の保全を実現するかについて検討・具体化することが望まれる。 ■ 日本を代表する製粉会社やうどんなどの食文化、紬など豊かな文化をもたらした沼であり、それらの文化を基に新たな産業創造や経済活性化の方向性を示すと共に、里沼の環境やブランドの質を守るような方策及び体制の充実が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	不可	■ ふるさと納税を一定程度確保しているものの、協議会への民間企業等の参画が十分でなく、取組内容について組織整備の評価項目と関連性が薄いことから、自立・自走した組織とするための財源の確保等、組織整備に向けた取組の充実化や組織整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価	可	■ 両市の文化財保存活用地域計画や都市計画マスタープランに日本遺産が位置付けられ、住民の認知度や文化への誇りも高いことや、行政計画に基づく基本的な取組も進められており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ ガイドが一定数確保され、ガイド養成講座が実施されているほか、人材育成を目的としたワークショップや講座などの基本的な取組が進められており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	不可	■ 解説案内板の整備や多言語化、構成文化財の整備など基本的な取組は実施されているものの、整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 構成自治体の周遊を目的としたイベントの参加者は多いとは言えないものの、観光客の入込数は一定以上あり、日本遺産関連のツアーや体験プログラム、商品の造成など基本的な取組が進められており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 地域内での日本遺産の認知度は高く、小学生を対象としたガイド育成・交流や他都市との交流事業、市民向け講座など、普及啓発に向けた取組が進められており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	不可	■ 様々なメディアを活用した情報発信や多言語対応といった基礎的な取組は行われており、ホームページのプレビュー数は一定数あるものの、Facebook以外のSNSの運用が停止しており、運用再開等の対応が望まれる。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンの具体性や地域の独自性等のビジョンへの適切な反映が不十分なため、ビジョンの更なる具体化・磨き上げ等が望まれる。 ■ 体験型周遊コースの充実や地域プレイヤーの育成といった目標が掲げられているものの、それを具体的にどのように進めていくのが不明確であり、6年間の取り組みを踏まえた新規性や独自性にも乏しく、取組の具体化等が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 文化財の好循環に向け、文化財保存活用地域計画を踏まえた確度の高い取組が言及されている点は評価できる。 ■ 協議会と分科会の関係性が不明確であり、組織体制の詳細な役割分担や自立自走に向けた組織体制の構築等といった取組の強化が望まれる。
総合評価	■ 福井市と勝山市が連携を進めようとしている姿勢や石文化のテーマを活かそうとする意図が感じられる点は評価できる。 ■ 現状や課題の分析はされているものの、その改善ができるような施策が提示されておらず、ビジョンや取組の具体性に乏しいことから、構成文化財の活用計画および体制整備を通じて、持続可能で実効性のある観光活用の仕組みを構築することが望まれる。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「歴史館いずみさの外国人観光客入館者数」、「施設等入館者」及び「PR活動参加者」について、目標を達成している。 ■ 「関西空港利用者数」、「外国人延べ宿泊者数」、「観光客宿泊者数」及び「日本遺産ガイドンスセンター入館者数」について目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「日本遺産を活用した事業の取り組み数」について目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産のPR支援団体や案内ガイドの育成」について目標を達成している。
(4) その他	不可	■ 「日本遺産「日根荘」ホームページ閲覧数」、「日本遺産「日根荘」アプリの解説・街歩きマップの作成」及び「日本遺産の認知度」について目標を達成していない。
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ 日本遺産への協力団体数やふるさと納税額が一定程度あり、民間企業と日根荘に関連した商品を開発しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	不可	■ 商品開発やモニターツアーの実施ができているものの、日本遺産の認知度はあまり上がっておらず、認知度向上に向けた戦略立案が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーや地域プレイヤーが一定数存在し、ガイド育成や地域住民を対象とした講座を開催しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	■ 日本遺産に興味関心を持った人の割合が一定程度あり、案内板の整備や多言語パンフレットを作成しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光客宿泊数が一定程度あり、日本酒や温泉の素など幅広い日本遺産関連商品を開発・販売しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 小学生向け出前講座への参加者数や民間主導のイベント数が一定程度あり、構成文化財写真展やPRイベント・ワークショップを実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ ホームページやSNS、YouTube等の多様なチャネルを活用した情報発信を行っているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 現状の課題を踏まえたビジョンの策定や取組内容の具体化ができており、これまでの事業も着実に推進している点が評価できる。 ■ 農村景観を体感できる文化観光としての方向性が明確化されており、ツアーの周遊ルートの中核とした好循環に向けた事業が適切に検討されている点が評価できる。 ■ 地域における人材育成や観光コンテンツなどの収益化事業などがバランスよく計画されている点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 民間事業者の能動的関与を得つつ事業を遂行する体制が整備されており、市外の専門家や教育機関など幅広いステークホルダーを巻き込んでいる点が評価できる。 ■ 各ステークホルダーの役割分担・関与方法の明確化や、戦略立案などに関してリーダーシップを取る主体の明確化が望まれる。 ■ 関西空港の集客力に加えて、日根荘独自の魅力を活かした集客方法を検討することが望まれる。
総合評価	■ これまでの取組の課題を踏まえた明確なビジョンの策定ができており、ビジョンの実現に資する体制整備や取組内容が具体的に計画されている点が評価できる。 ■ 日本遺産を基軸にした文化観光、シビックプライドの醸成など、幅広い取組内容が計画されている点が評価できる。 ■ 日本遺産を地域ブランドとして守る意思が強く感じられる計画となっており、3つの日本遺産の連携にも期待を持てる点が評価できる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、概ね目標を達成している。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「日本遺産への協力団体数」について目標を達成していない。
(4) その他	不可	■ 「小売店舗年間商品販売額」について目標を達成していない。
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	不可	日本遺産への協力団体数は一定程度あるものの、協議会への持続的な収益額の確保や組織整備に関する適切な評価指標の設定など、組織整備の土台となる取組が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価	不可	文化財保存活用地域計画等の自治体の長期計画への位置づけなど基礎的な取組が行われているものの、認知度を向上させるための方針の検討など、戦略立案のさらなる強化が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価	可	地域プレイヤーを一定数の確保しているほか、観光ガイドの育成や市内の観光関連事業者等を対象とした人材育成講座の開催が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	不可	PR看板の整備や多言語案内アプリの作成など基礎的な取組が行われているものの、取組内容を評価するための適切な指標の設定や、保存・修理や日本遺産コーナーの設置だけに留まらない日本遺産事業としての更なる整備が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	観光客入込み数が一定程度あるほか、周遊促進事業の実施や日本遺産関連商品の開発が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	小中学生向けの日本遺産に関する授業・講演会の実施を通じて、授業の受講者数や理解度が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	ホームページやSNS等の多様なチャネルを活用した情報発信を行い、観光ポータルサイトでは閲覧数が増加傾向にあるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ ビジョンについて、日本遺産事業等を通じてどのような地域にしたいのか具体化するとともに、地域の独自性を持たせることが望ましい。 ■ これまでの取組・課題を整理した上で、ビジョンの実現に向けて取組内容の具体化を図ることが望ましい。 ■ 日本遺産ストーリーを体感させる施策や地域住民の認知度向上に向けた施策を検討することが望ましい。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ これまでの取組課題を踏まえて、組織の収益性向上に向けた改善策が示されている点が評価できる。 ■ 地域住民の参画を促す仕組みづくりやDMOの設立など、自立自走に向けた実効性のある取組内容を検討・具体化することが望ましい。 ■ スピード感を持って協議会の法人化に取り組むことが望ましい。
総合評価	■ 全体的に日本遺産としての活動が行われる計画が策定されている点が評価できるが、ビジョンとそれに紐づく事業全体が抽象的であり、日本遺産の固有性や強みをどのように活かしていくか検討・具体化を図ることが望ましい。 ■ 事業予算を適切に活用するための詳細なアクションプランの設計が望ましい。 ■ 楠公めしなどの商品開発にとどまらない新たな基軸を打ち出すために、民間事業者の参画をさらに促進することが望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「外国人観光客数」について、目標を達成している。 ■ 「観光客入込み数」及び「宿泊者数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」、「小中学生における認知度」及び「日本遺産に係る地域伝統文化の伝承を担う保存会等の数」について、目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	不可	■ 協力団体数やふるさと納税額が一定程度あるものの、組織整備に関する取組をより一層推進することが望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価	可	■ 認知度が一定程度あるほか、観光・移住定住戦略計画への位置づけが行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プレイヤーが一定数存在するほか、ガイド育成や研修会を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	不可	■ スマートガイドの導入や案内板の整備などが行われているものの、整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	不可	■ ストーリーに関連した旅行商品の造成や食品開発などが行われているものの、より効果的な事業の検討等、観光事業化に向けた取組のより一層の充実が望まれる。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産の認知度や民間主導のイベントの数が一定程度あるほか、展示会や出前講座を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ WEBサイトの閲覧数やSNSのフォロワー数が一定数あるほか、PR動画の作成やSNSを活用した基礎的な情報発信が行われているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 新たに造成された「あこうミネラルツーリズム」が日本遺産のストーリーを伝える企画となっている点は評価できるが、実現に向けた具体策の提示が求められる。 ■ 計画全体が市としての大きな方針を示す内容に留まっているため、日本遺産を活かした地域活性化につなげるためのビジョンを整理することが望まれる。 ■ ビジョンに地域の独自性を持たせ、取組内容についてビジョンの実現に向けた具体的な方策まで整理することが望まれる。 ■ 出前講座の受講者数や情報発信の頻度を増やすなど、地域への日本遺産ストーリー等の浸透度を高めることが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 地域DMOの参画や、協議会と民間団体の連携のための部会設置などにより体制強化が図られている点が評価できる。 ■ 民間主体の活動の推進や地域プロデューサーの確保などを通じ、事業成果の創出に向けた取組の強化が望まれる。 ■ 自立自走に向けては、公金だけではなく、観光事業等による財源創出（好循環の実現）取組を推進することが望まれる。
総合評価	■ 過去6年間の活動経緯を踏まえ、これまでの延長線上の事業だけではない、新たな地域活性化策の検討が望まれる。 ■ 塩の販路開拓だけでなく、日本遺産のストーリーを意識したうえで更に掘り下げ、日本人と塩づくりの関係等、ストーリーを体感できる事業の展開が望まれる。

評価結果	認定継続
------	------

総括評価 概要

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「学校・住民主体で実施された講座等の取組件数」について、目標を達成している。 ■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」及び「日本遺産への協力団体数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ サポーター登録者数やふるさと納税額が一定程度あるほか、関連団体との連携やサポータークラブの運営など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	可	■ 認知度が一定程度あるほか、連携中枢都市圏ビジョンや構成自治体の総合計画等への位置づけ、マーケティング調査による観光客のニーズ把握など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プロデューサーをはじめ、日本遺産ガイドや日本遺産の応援サポーターの養成を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	不可	■ 日本遺産紹介コーナーや解説板、新たなガイド施設（仁風閣）などの整備、多言語PR動画の制作などが行われているものの、整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ ストーリーに関連した旅行商品や観光体験プログラムを造成するほか、周遊促進のためのデジタルスタンプラリーの実施や周遊バスの整備など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産の認知度や民間主導のイベントの数が一定程度あるほか、パネルの巡回展示や住民向け講座を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ WEBサイトの閲覧が一定数あるほか、SNSを活用した情報発信を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 来訪者および地域住民の内外の視点から目指すべき姿・ビジョンが描かれた点が評価できる。 ■ これまでの取組成果の分析から課題を抽出した上で、課題に対して事業が適切に組み立てられている点が評価できる。 ■ 計画として大きな枠組みは整理されているが、各地域にどのように落とし込むか、ビジョン実現に向けた取組内容のいっそうの具体化が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 組織運営の中心としてプロジェクトリーダーやDMOが位置付けられている点が評価できる。 ■ 地域毎の活動を支える組織設計や各地域同士の連携方針、行政と民間の役割分担について計画の具体化を図ることが望まれる。
総合評価	■ 過去の課題を踏まえて目的意識を持った取組が計画されている点が評価できる。 ■ 各事業の予算が一定程度あり、過去の活動成果を踏まえた計画となっている一方、経済効果に結び付けるためには、もう一段、誘客に向けた魅力的な取組を計画・具体化させることが望ましい。 ■ 全体的なブランディングを地域にうまく浸透させ、活用するための工夫が望まれる。 ■ ビジョンの実現に向け、具体的な体制と取組を検討することが望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」について目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「石見神楽出張上演制度の利用件数」について目標を達成していない。
(4) その他	—	—
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ 神楽団体等の協力団体数やふるさと納税額が一定程度あり、おもてなし受入体制を充実するための講演会を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	可	■ 様々な圏域での認知度調査やデータに基づく戦略立案を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 神楽産業関連の地域プレイヤーが一定数おり、民間団体主体での後継者育成を継続的に実施しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	■ 石見神楽定期公演における県外からの観覧者割合が高くなっており、石見神楽の定期公演会場の整備や観覧者向け演目紹介動画の作成を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 石見地域の宿泊者数が一定程度あり、石見神楽の出張上演や高付加価値コンテンツの造成・販売を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 石見地域の市町における日本遺産展示会の開催、日本遺産ワークショップの実施、子ども神楽体験教室の開催を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 協議会ホームページやSNSを活用した情報発信、県外でのプロモーションやワークショップの実施、PR映像の制作・発信など、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 明確なビジョンがあり、現状把握や課題抽出が的確で、それに基づいた具体的な改善方策が提示されている点が評価できる。 ■ 定期公演をベースに高付加価値なコンテンツを意欲的に展開し、自立性やストーリー全体を踏まえた世界観の創出に取り組んでいる点が評価できる。 ■ 神楽を軸とした地域活性化の取り組みが、文化資源を活かした新たな「産業観光」の視点を含み、観光振興と地域活性化という明確な目的をもとに進められている点が評価できる。 ■ 出張神楽などの具体的なコンテンツがマーケティングの視点を取り入れつつ実行している点が評価できる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ DMOを核とした官民連携の推進体制が整備され、神楽団体を含む組織づくりや体験教室を通じた後継者育成が進められている点が評価できる。 ■ 定期公演など継続性を意識した取組が行われており、推進体制が工夫を重ねて変化している点が評価できる。 ■ 日本遺産事業全体の戦略立案や、各地域の取組を立案・支援するための体制をさらに強化することが求められる。 ■ 自立・自走に向けた取組が道半ばであり、5年後・10年後を見据えて日本遺産事業全体を俯瞰して統括できる人材の確保が望まれる。
総合評価	■ 安定感のある計画であり、神楽を中心とした日本遺産ストーリーを活用した観光振興を図られている点が評価できる。 ■ 文化資源の保存と活用を両立しながら持続可能な発展を目指す具体的な取組を計画されている点が評価できる。 ■ 官民の役割分担を含めた好循環の事業モデルの創造が期待される。 ■ 個々の産業や職人等、神楽産業を活かす事業の成否が重要であり、そのための体制強化や新たな事業提案の工夫が求められる。 ■ 好循環の実現に向けて、観光消費額等の金額目標を設定し、継続的に把握することが望まれる。 ■ 地域への来訪者に日本遺産ストーリーを理解いただくためのガイダンス機能の強化が求められる。
評価結果	認定継続

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「外国人観光客数」及び「外国人宿泊者数」について、目標を達成している。 ■ 「観光客入込み数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について、概ね目標を達成している。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産のためのふるさと納税額」及び「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	—	—
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	不可	■ ふるさと納税額の一定額の確保や「日本遺産石の島つながるガイド会議」などの連携事業が進められ、DMO認定やガイドの組織化が行われているものの、それらの組織的な位置付けや組織全体の運営実態が不明瞭であるため、各組織の役割や連携の位置付けの明確化が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価	可	■ 地元住民の認知度が一定あり、構成自治体の計画への位置付けやマーケティング調査を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図るための戦略立案に係る基礎的な整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 地域プレイヤーが一定数存在し、ガイド養成やサポーター養成講座を実施するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	■ 観光客の満足度や宿泊客数が一定程度あり、構成自治体で共通の解説案内板を整備するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光入込客数が一定程度あり、ストーリーに関連した旅行商品の造成を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 日本遺産の認知度や民間主導のイベント数が一定程度あり、展示会や巡回展の開催等を通じた普及啓発を行うなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 日本遺産特設サイトやSNSの運営、観光デジタルサイネージの設置や、都市部イベントでのPR等の多様なチャネルを活用した情報発信を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。
総合評価		可	■ 全体として各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 離島という地域特性が抱える課題を的確に分析し、その解決に向けた事業計画が立案されてされており、クルーズ事業への挑戦や財源確保を含めた多角的な検討は、実行力を持つ計画として評価できる。 ■ ビジョンの具体性やストーリー性の強化、目標設定の消極性の改善、財源確保の具体化、広域的な連携体制の実効性の向上が求められ、観光と文化のバランスを意識した取り組みや海外広報戦略の充実が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ これまでの組織課題を踏まえた改善の方向と具体策が明確であり、地域おこし協力隊や宿泊税導入といった意欲的な取り組みが進められる中で、シリアル型離島の制約に対応しながら、それぞれの地域の強みを活かした計画が策定されている点が評価できる。 ■ リーダーの配置育成や自治体主導を乗り越える展開が求められ、民間事業者・コーディネーターの活用や好循環の創出に向けた具体的な仕組みの検討が必要であり、行政主体に偏らない体制構築や、体制強化の実効性向上が望まれる。
総合評価	■ 現状を踏まえた改善策が含まれた着実な計画案となっており、取組内容や体制についても評価できる。 ■ 離島の石材産業遺構などの観光資源を活かした方向性が示されており、ビジョンを着実に実行することで成果が期待される点が評価できる。 ■ 離島の制約を前提にすることで計画が縮小再生産に陥らないよう、日本遺産を駆使した新たな価値創出が求められる。 ■ リーダー人材の育成や体制強化の実現可能性が懸念され、観光の質向上と組織・インフラ整備の方針について具体的な検討が望まれる。
評価結果	認定継続

総括評価 概要

I. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「各麓への観光客入込み数」、「ホームページへのアクセス数」について、目標を達成している。 ■ 「観光客入込数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」、「出前授業の回数」及び「小中学生における認知度」について、目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産への協力団体数」及び「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を達成している。
(4) その他	不可	■ 「ガイド人数」や「副読本のダウンロード数」について、目標を達成していない。
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ 協力団体数が一定程度いるほか、プロジェクト委員会やワークショップの開催などの取組も行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	不可	■ 南さつま市総合振興計画等一部の長期計画において日本遺産の位置付け等が行われているものの、各地域を統合した全体の中長期計画は地域活性化計画以外に確認ができなかったため、全体の中長期計画の具体化・更新等が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価	可	■ 各麓に地域プロデューサーが配備されており、ガイド育成に向けたワークショップなども一定程度行われているため、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(４) 整備	個別評価	可	■ 観光客の理解の深まりに関する満足度が一定程度あるほか、各麓に共通解説板を設置するといった取組を行っており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ スタンプラリーの実施や観光素材集の作成などの基礎的な取組を実施しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 副読本を活用した出前授業に取り組み、一定程度の参加人数を確保しているなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 多言語に対応したホームページの整備やYouTubeの運用を行い、定期的な更新/投稿の結果、一定程度の閲覧数を獲得しており、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、各評価項目について、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組が概ね実施できている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域の状況を踏まえ、一定程度独自性があるビジョンになっているものの、地域特有の課題に対応したものとなっておらず、具体性も乏しいため、ビジョンの更なる具体化・磨き上げ等が望まれる。 ■ 取組についてもビジョンと同様具体性に欠けるため、取組の具体化や地域協議にて委員から指摘があった民間企業の更なる巻き込み、解説案内板の拡充等が望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 体制整備は一定程度行われているものの、行政主導であり、民間事業者の巻き込み強化や、自立自走に向けた財源確保に係る取組を強化することが望ましい。 ■ 組織内の役割分担を明確にするとともに、シリアル型としての連携強化について取組の充実が望まれる。
総合評価	■ 日本遺産としての活動が行われる計画となっている点は評価できるが、ビジョンやその実現に向けた取組についてより一層具体化することが望ましい。 ■ 組織体制について、シリアル型としての統合的なマネジメント機能の強化、民間事業者の巻き込み等の改善を図ることが望ましい。
評価結果	認定継続

総括評価 概要

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	可	■ 「観光客入込み数」について、目標を概ね達成している。 ■ 「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民の割合」について目標を達成していない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」について、目標を概ね達成している。
(4) その他	-	-
総合評価	可	■ 全体として概ね目標を達成している。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	可	■ 会員の民間団体数や県・市の負担金が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る組織整備に必要な取組が概ね実施できている。
(２) 戦略立案	個別評価	可	■ 日本遺産HPのアクセス数や行政計画への位置づけ数が一定程度存在するなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る戦略立案に必要な取組が概ね実施できている。
(３) 人材育成	個別評価	不可	■ 地域プレーヤー数は一定存在するが、多分野をつなぐトータルのコーディネートができる地域プロデューサーを育成するなど、更なる人材育成に必要な取組が望まれる。
(４) 整備	個別評価	不可	■ 多言語解説板等、日本遺産の構成文化財に関する更なる整備の取組の推進や、整備に関する適切な評価指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	可	■ 観光入込客数やモデルコース等の設定数が一定程度あり、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る観光事業化に必要な取組が概ね実施できている。
(６) 普及啓発	個別評価	可	■ 普及啓発マンガ本の配布数や市民講座の満足度が一定程度あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る普及啓発に必要な取組が概ね実施できている。
(７) 情報編集・発信	個別評価	可	■ 日本遺産HPのレビュー数やプロモーション動画の再生数が一定数あるなど、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る情報編集・発信に必要な取組が概ね実施できている。
総合評価		可	■ 全体として、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施が概ねできている。

	評価内容
① 日本遺産という資源を活かした地域づくりについての将来像（ビジョン）と、その実現に向けて日本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に示されていること	■ 地域住民、訪問者、地元事業者の好循環が意識されていることは評価できる。 ■ 今後、好循環を生み出すための意識に留まらず、取組の強化を行うことが望まれる。 ■ 従来型の観光の一般的内容に留まることなく、日本遺産のテーマである「琉球料理」「泡盛」「芸能」を活用したビジョンを描くことが望まれる。 ■ 宮廷料理、琉球料理、沖縄料理の区分、また那覇と浦添における位置付けを明確にした上で、ビジョンと事業内容を精査することが望まれる。
② ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能となる体制が整備されていること	■ 事業化を通じていずれ民間の力で運営されるべきと理解し、好循環を生み出そうとしている意識は評価できる。 ■ 伝統工芸や芸能などの団体や、食文化の担い手として一次・二次産業従事者等にも着目する等、役割分担を明確にしながらそれら民間事業者を協議会の構成団体に巻き込む等、官民あげての体制を構築することが望まれる。
総合評価	■ 従来型の観光から文化観光に舵を切ろうと意識されていることは評価できる。 ■ 食文化や芸能などの日本遺産ストーリーを意識した取組の充実や事業全体をプロデュースできる人材・業者の発掘を通じた人材育成の取組等が望まれる。 ■ ガイドツアー・体験コンテンツ・商品販売等の日本遺産関連事業を通じた観光事業化の取組を行うことで、より経済効果を生み出すことが望まれる。
評価結果	認定継続

「日本遺産（Japan Heritage）」候補地域 認定審査結果一覧

分類	番号	都道府県名	申請者（◎印は代表自治体）	ストーリー名
候補地域継続	1	京都府	京都市	おもてなし文化 ～受け継がれゆく京の花街～

候補地域 認定審査結果

総括評価

Ⅰ. 計画目標の達成に対する評価

	評価	評価理由
(1) 日本遺産を活用した集客・活性化	不可	■ 「観光客入込み数」及び「外国人観光客数」について、目標を達成していない。
(2) 日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化	不可	■ 「地域の文化に誇りを感じる住民等の割合」について、令和6年度の調査が実施されていない。
(3) 日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立	不可	■ 「日本遺産関連で開発された商品・サービス数」及び「日本遺産認定に向けた取組への協力者数」について、目標を達成していない。
(4) その他	不可	■ 「担い手の人数」について、目標を達成していない。
総合評価	不可	■ 全体として目標を達成しているとは言えない。

総括評価

Ⅱ．取組内容に関する評価

		評価	評価理由
(１) 組織整備	個別評価	不可	■ 関係団体との連携などの基礎的な取組が行われているものの、おおきに財団友の会会員数が減少するなど、組織体制に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(２) 戦略立案	個別評価	不可	■ マーケティング調査などの基礎的な取組が行われているものの、花街関連商品の販売額が減少するなど、戦略立案に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(３) 人材育成	個別評価	不可	■ 芸妓舞妓の人材育成の取組に留まっており、花街全体の地域活性化に向けた人材確保・育成など、人材育成に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(４) 整備	個別評価	不可	■ 環境整備や建造物の修理、多言語化等の取組が一定程度行われているものの、取組内容进行评估するための適切な指標の設定が望まれる。
(５) 観光事業化	個別評価	不可	■ インバウンド向けの非公開文化財特別体験コンテンツの造成などの取組が行われているものの、観光事業化に係る取組のさらなる強化が望まれる。
(６) 普及啓発	個別評価	不可	■ 取組内容は他府県の学校の修学旅行生に向けたものが主であり、地域内の学生・住民に向けた普及啓発に向けた取組が実施されておらず、普及啓発に係る取組のさらなる強化が望まれる。 ■ 取組内容进行评估するための適切な指標の設定が望まれる。
(７) 情報編集・発信	個別評価	不可	■ 各種チャネルを活用した情報発信の取組が行われているものの、取組内容进行评估するための適切な指標の設定が望まれる。
総合評価		不可	■ 全体として、日本遺産を通じた地域活性化・観光の振興を図る土台の整備及び必要な取組の実施ができているとは言えない。

	評価理由
① ストーリーの内容が、当該地域の際立った歴史的 特徴・特色を示すものであるとともに我が国の魅 力を十分に伝えるものとなっていること	■ ストーリーについて、特に何をテーマにして語りたいのか、その独自性は何かを明確にすることが望まれ る。 ■ 京都には数多くの文化資源がある中で、花街をどのように位置づけ、何を保全・継承・活用し、日本遺産 を通じてどのように地域活性化に繋げるかの考えを明確に定義することが望まれる。
② 日本遺産という資源を活かした地域づくりについ ての将来像（ビジョン）と、その実現に向けた日 本遺産地域として取り組む具体的な方策が適切に 示されていること	■ ビジョンについて、ストーリー上重視されている「おもてなし」を活かすような内容となっていない。 ■ 花街を活かした地域活性化の方向性が不明瞭であり、これまでの成果や課題等を踏まえ、方向性とその実 現に向けた具体策を検討することが望まれる。
③ ストーリーへの国内外への戦略的・効果的な発信 など、日本遺産を通じた地域活性化の推進が可能 となる体制が整備されると見込まれること	■ 事業の推進体制が従来の体制を踏襲し花街と関係者に限定されているように見受けられるため、一般の民 間企業の参入を促し、自走・好循環を生み出し、今後の活動の発展が期待できる体制を構築することが望 ましい。
総合評価	■ 昨年度審査時の指摘を踏まえた計画の修正・ブラッシュアップが求められる。 ■ 花街関係者だけではない地域の関係主体・民間事業者の参画を念頭に置いた実施体制の構築が望まれる。 ■ 日本の歴史における花街の意味を正確に海外に発信していくために、「おもてなし」以外の切り口の検討 が求められる。

評価結果	候補地域として認定継続
------	-------------